

ダム計画の代替案を本気で検討する必要性について

平成 20 年 4 月 10 日

淀川水系流域委員会委員 竹門康弘

第 57 回以降の委員会審議、審議資料、質問回答資料の内容を検討した結果、審議対象となった大戸川ダム+天ヶ瀬ダム再開発、川上ダム、丹生ダムのいずれのダム計画についても、代替案の検討が不十分であると判断された。第 76 回委員会では、代替案の検討に関して十分な審議時間が無かったこともあり、結論として不十分であるとの意見しか表明できなかった。しかし、河川整備計画原案を納得できるものに改善していただくためには、代替案がどうあるべきであるかについても明記する必要があると思われた。そこで、以下に代替案の検討が不十分であると判断された理由について記すとともに、河川整備計画に反映していただきたい課題と方針について意見をまとめた。

問題点 1：これまでに示されたコスト計算の対象は、工事費や土地買収費など建設に要する経費に限られており、施設運用経費（人件費を含む）、環境対策経費、堆砂対策経費、ダム施設の減価償却費、進行中のダム事業をやめるための経費などを含んでいない。課題と方針：設備の耐用年数などを目処とする長期間の必要経費全体について、時間変化をも考慮して包括的にコスト計算をする必要がある。

問題点 2：いずれのダム計画においても、環境影響が軽微であるか影響があっても環境対策によって問題解決できるとして、代替案を検討する際の評価項目に環境リスクが加えられていない。課題と方針：水質、土砂、生物のいずれの観点からも貯水ダムが環境に影響を与えることは否定できない事実である。それらの環境リスクを金銭的にコスト換算することは必ずしも容易ではないが、個別の工夫と努力によって、代替案を検討する際の評価項目に加えるべきである。

問題点 3：ダムの建設目的に限定した利益計算しかしていない。課題と方針：治水、利水、環境の各観点から、各案の実施によって期待される利益について、上記のコストと同様に金銭換算が必ずしも容易ではないメリットも含めて加算し包括的に評価する必要がある。

問題点 4：各案の評価が総合的に行なわれていない。課題と方針：上記の 1) ～ 3) について、時間的変化をも加味した B/C を総合的に評価する必要がある。

問題点 5：代替案の複合的な検討が不足している。また、各ダム計画における代替案では、時間や経費を節約するための工夫が尽くされていない。課題と方針：引き堤、河川付替、河道改修、放水路、遊水地、水田貯留、雨水貯留槽、溜め池、小規模発電、他のダムとの連携運用、他の取水施設との連携運用などを組み合わせ

せて、全体として目標達成することを使命として本気で検討するべきである。

問題点6：代替え案にダム建設をやめる場合のシナリオが示されていない。課題と方針：ダム建設をやめる場合についても、流域対応の治水，利水，環境計画を地域の持続的な発展と抱き合わせて明るく前向きに検討するようなシナリオを示すべきである。